

年収150万円

で暮らすす法

吉田 清彦

②
で一概に判定することはできないが、経済的側面からだけ言うと、高金利の時代には借家の方が有利であるらしい。

私自身は、昔から、借家派である。それにはいろいろ理由があるが、もともと、私には、人生は仮の浮世、住むところなど雨露さえ凌

（し）げれば、という考えがある。それに、できるだけ身軽でいたい。住むところはもちろん、人間関係や職業さえも、一つところに縛られず、自由に変えて

雨露さえしのげれば

いきたい、という願望がある。事実、学生時代から十回近く転居を繰り返してきた。

身軽さ魅力の借家

うのは、はなから念頭に無かったのだが、最近ちょっと情勢が変わってきた。というのは、数年前の地価高騰のおおりで、賃貸料のシステムが、敷金が高いかわりに一度入居すると家賃は変わらないという「関西方式」に代わって、保証金に更新(値上がり)する「関東方式」が、関西方面にもジワジワと浸透しはじめている。

借家が得たとか、あるいは気軽に転居などというのは、家賃が極端に値上がりしないということを前提にしている話である。

バス・トイレ付きの2Kで三万九千円というのは本当のところは、今のところ当のところは、今のところに移り住んだ十三年前の相場であって、同じような条

件の部屋を今借りるとなると、おそらく、五十六万円はするのだと思う。

もちろん、都心から離れた場所になら、もう少し安いところもあるのだろうが、交通費や時間のことを考えれば、かえって高くてくような気がする。

十三年前に比べれば本や資料などが格段に増えて、一人住まいのわが家も少々手狭になった感があるが、今となつては転居もままならず、結局この家が終(つ)いの住みかとなつてしまふのだからと覚悟を決めている。それはさておき、マンションではないので家賃のほかには、共益費、管理費などの余分なものは要らないが、築後二十三年も経つと建物の造作に少ずつガタが出はじめる。この数

普通、生活費のなかで一番多く占めるのは食費や教育費なのだろうが、私の場合、家賃の方が高くてついでに、それでも、バス・トイレ付きの2K(六畳、四畳半の二間と三畳のキッチン)で三万九千円なので、皆からは、今どき安いと言われている。

ちなみに、今住んでいるところは、築後二十三年経つ二階建ての木造アパートの二階の奥。周辺に家が立て込んでいて日当たりが悪いのが難点だが、幹線道路から離れているので、周りは静かで、住み心地は申し分ない。それでいて、三宮には十五分、梅田にも一時間足らずで出掛けることができる。

ところで、昔から、都会に住むサラリーマンにとって持ち家が得か、借家が得かということが、たびたび話題になる。これには心理学的な要素もかんじられるの



吉田さんが住む築23年のアパートの前で。8戸入居の2階奥が自宅。2Kバス・トイレ付き、家賃3万9千円(神戸市灘区)

年の間に、ふろ場の浴槽と床のタイルとの間とトイレの上部タンクとともに亀裂が入り、水漏れがするようになった。

こういうところをいちいち業者を呼んで修理をお願いするようだと、とついでに年収百五十万円ではやっていけない。修理用のパテの代わりにチューインガムを詰めたが、今のところそれでなんとか間に合っている。(フリーライター、神戸市在住)